



図書館だより



令和5年1月 図書館委員会
24H 堀田・西田

心が温まる本

ってきましたね。今回はそんなときに読みたくなる「心が温まる本」を紹介します。ぜひ読んでみてください。

こんにちは！図書館委員会です。寒い季節がや

「優しい死神の飼い方」 知念実希人 光文社

「我が主様」からの命を受けて、ゴールデンレトリバーの姿で地上に左遷された死神。看護師の菜穂に拾われレオと名付けられる。そしてレオは、あるホスピスで死の間際にいる患者たちを、未練から解放するために、未練の原因を解き明かしていく。しかし、やがてそれは、過去の未解決だった殺人事件に繋がっていく。全ての結末を知ったとき、感動で胸が熱くなり涙が流れてきます。



東野圭吾 人魚の眠る家



「人魚の眠る家」 東野圭吾 幻冬舎

夫の浮気が原因で娘のお受験が終われば離婚の約束をしていた和昌と薫子。しかし、娘がプールで溺れてしまい、病院に搬送されたが意識は戻ることはなかった。医師に脳死が告げられると、両親は残酷な現実を一旦受け入れたが、母薫子は娘への愛が強すぎて周囲は翻弄されていく。そして医師も驚くような方法で、娘との生活を続けていくことになる。本当の幸せとは何かを考えさせられ、愛の結末に涙が出てきます。

「ツバキ文具店」 小川糸 幻冬社文庫

鎌倉で小さな文具店を営む鳩子。祖母から受け継いだ代書屋には、日々様々な人が代書依頼にやってくる。鎌倉の人々や代書という仕事に向き合っていくうちに、鳩子は亡き祖母への自分の気持ちに気づかされていく。心が温まる感動的な作品であり、現代で忘れがちな大事なことを気づかせてくれる一冊です。





「お探し物は図書室まで」

青山美智子 ポプラ社

お探し物は、本ですか？仕事ですか？人生ですか？人生に悩む人々が、ふとしたきっかけで訪れた町の小さな図書室。悩む人々の背中を、不愛想だけど聞き上手な司書さんが、思いもよらない本のセレクトと可愛い付録で、後押しします。立場も年齢も違う主人公5人による、自分の生き方や価値観に勇気を与えてくれるストーリーです。



今月の新着図書紹介



現役医師として新型コロナを目の当たりにしてきた人気作家が満を持して描く、コロナ禍の医療現場のリアル『機械仕掛けの太陽』。2020年初頭、マスクをして生活することを誰も想像できなかった——これは未知のウイルスとの戦いに巻き込まれ、“戦場、に身を投じた3人の物語。

『変な家』の作家・雨穴作品第2弾。今回のテーマは、謎に包まれた『変な絵』。展開も内容も前作以上にミステリー小説としての面白みを増している。一見、特に問題も無い絵。しかし、よくよく見れば何かがおかしい。いったい何を訴えようとしているのか？そんな奇妙な9つの絵に秘められた謎を解き明かしていくミステリー。



宇宙旅行の商業化に後押しされ、民間人が宇宙で最初、最高、最年長、最年少記録を競い合う日がそこまで来ています。今年の『ギネス世界記録 2023』は宇宙をテーマに、ロケット、宇宙での生活、宇宙ゴミなど、宇宙のことがいろいろな角度からわかるような最新で最高な世界記録の数々をたくさん紹介しています。



年度末が近づいてきています！

きちんと返却して、すっきりと新学年をむかえましょう！

